



画 むげんてつや 先生

### ごあいさつ

3月1日は雪が舞う天候となり、ここ千葉の沿岸でも3cmほどの積雪がありました。久しぶりに見る雪景色はとても幻想的で美しいものでした。ところで、29日は私たちの駅伝チームが毎年楽しみにしている天保駅伝大会が開催されました。全10区間31kmを1チーム10人でタスキをつなぎます。先頭に行くチームは1kmを3分のスピードで刻んでいきますから、私たちとの実力の違いは明らかです。1km走ることに1分以上の差が積み重なっていくという計算になります。約23kmを走った地点にある第七中継所は最大の難関で過去4年間どうしても繰り上げスタートを免れることはできませんでした。そして、今回は、とうとう！繰り上げスタートの直前に見事にタスキが渡ったのです。幸い私はこのシーンを現場で見ることが出来ました。

「タスキをもらい、タスキを渡す」という連携作業は、実は毎日くりかえされている生業のようなものに違いありません。タスキのように実際に見えることではないけれど、毎日生活し、仕事をしていることは「誰かからタスキをもらって生きている」という感覚が私にふと湧いてきたのです。そのタスキには「汗や思い」が染み込んでいるのです。仕事において確実に「タスキ渡し」をしているのかどうか考えてみました。そのタスキに汗や思いがこもっているかを考えてみました。

だから、足が速いわけでもないのに、また駅伝に出場するのです。さくらんぼの花が咲きました。ふきのとうが顔を出しています。娘が高校生になりました。我が家にも春がやってきました。皆様のご健康をご祈念申し上げます。 秋葉タスケ

# A News Letter from Woody Akiba

タースケの工事日記

2004年3月号

## 築100年の民家を調査しました

ある天気の良い日の午後、築後100年(推定)の民家を調査するためあるお宅にお邪魔しました。びっくりしたのはお父さんもお子さん達も和風の民家風住宅を建てたいと望んでいらっしゃる事です。生活が洋風化し、日本の農村風景ももどんどん様変わりしてきました。洋風のスタイルがオシャレで日本の伝統は古い過去だとばかり、惜しげもなく古いものを壊してきました。そんな中で、この家を解体し、使えるものは利用して、さらに長持ちをする家を建てるという発想には共感します。それどころか、これが本来必要なことだったのだという思いが湧きあがってきます。あらためて私達が壊してきたり、無視してしまったものについて考えさせられました。私達の生活スタイルはやはり自然とともにありたいものです。

天井裏にもぐっていくと真っ黒な丸太や梁材が組み重なっていました。写真を撮ったのですが残念ながら真っ暗に真っ黒で写りませんでした。(秋葉)



## 丸太の年輪を見て思う



ただいま、新築中！こちらの家は真ん中に太い丸太が立っていて、大きな梁(上に乗っている角材のことです)を支えています。木は目にやわらかく触ってあたたかい自然の生き物です。年輪に刻まれた歳月を思えば私達に畏敬の念すら起させます。ちなみにこの丸太の年輪は30ありました。「あれ、私より少ないの？」30年でこんなに成長できる丸太がうらやましくなりました。この年輪を見ているとなんだか「ホッ」としますよ。住まいに必要なのはこの感覚なのではないでしょうか。

プレゼント  
左と上の写真に写っているのがみがき丸太の切れ端です。こんなものでよかったらもらってください。イスにするもよし、眺めるのもよし。先着4名様限定です。手渡しできる方に。ただし、パームクーヘンと違って食べられません。さらに切れ端でつくった「木のはがき」をお送りします。こちらは限定10名様とさせていただきます。お申し込みは電話・郵便・FAX・メールいずれでも結構です。

ご連絡先 秋葉建設 秋葉 忠夫  
〒289-2163 八日市場市南神崎52-1  
電話0479-72-0814 FAX047972-0824  
Eメール akibakk@rapid.ocn.ne.jp  
HP URL <http://www1.ocn.ne.jp/~akiba/>

本誌を購読ご希望の方、お待ちしております。「木のいい会」